

2013年6月20日

子宮頸がん予防ワクチンの積極的接種勧奨の差し控えについて

子宮頸がん征圧をめざす専門家会議

議長 野田 起一郎

実行委員長 今野 良

子宮頸がん予防ワクチンに関する正確な副反応情報の積極的な収集・検討により、安全性が科学的に評価され、紛れ込み事故を含む憶測情報が排除されて、安心して予防接種が実施されることを希望します。国はできるだけ早く結論を出し、適切な対応をとっていただきたいと思えます。

ワクチン接種台帳の整備をさらに促進し、今回の積極的接種勧奨の差し控えによって接種を躊躇された方に対して、接種勧奨再開の際により積極的な接種勧奨ならびに必要な行政措置を行っていただく必要があります。また、接種を受けなかった方が、将来、検診受診対象年齢になった際に、より積極的ながん検診受診の勧奨を行うことが重要です。

WHOはじめ海外の政府機関等は子宮頸がん予防ワクチンの接種中止を勧告したことはありません。今回の積極的接種勧奨の差し控えが、日本の公衆衛生ならびにがん・ワクチン行政において、大きな禍根を残すことのないように希望します。

一次予防であるワクチンと二次予防である検診の両方を上手に組み合わせて子宮頸がんを征圧し、日本の女性ならびに家族の健康と将来を守ることが重要です。